

平成29年度 需要実績見込

(一社)日本塗料工業会 事務局作成

平成29年度は、平成29年12月までの経産省確報値及びその後の速報値や主要メーカーの業況観測アンケートから、塗料需要の実績見込は前年度比100.8%（1,392千トン）と予測した。
 ※平成28年度実績はVOC排出実態推計から1,381千トンとした。

需要産業区分		予測数量 (千トン)	前年度比	前年度比算出根拠（メーカーコメント参照）
建 物		375	98.9%	市況は民間・官公庁に関わらず低調。繁忙期の秋口以降も天候不順で追い討ち。ここ数年来、長雨、台風等の気象変動影響も大きく、新たな市況低迷要因になりつつある。
建築資材		75	101.8%	都内再開発物件、五輪需要が牽引し工場塗装の建築資材は堅調に推移。窯業外装建材出荷量は好調も、下期は低下傾向。非住宅（介護施設、老人ホーム、商業施設等）の需要旺盛。
構造物		84	98.4%	都市部再開発等の案件が終息し市況は低迷。企業設備も停滞。橋梁新設は微増も塗替えは横ばい。公共工事需要の伸長が期待されたが、大きな伸びはなくマイナス見込み。
船 舶		113	99.1%	新造船建造は底を迎え、工程の引き伸ばしなどの影響で塗料出荷も低迷。修繕船は規制前需要の反動があったものの、後半は市況回復基調。全体ではマイナスの見通し。
道路車両	新車	223	104.6%	H29年度国内生産台数は967万台の見通し。（H28年度936万台）無資格検査問題での落ち込みも、軽自動車の自動車増税からの回復や新型車投入により、国内需要が伸び前年を上回る。
	補修	37	97.6%	構造問題（若年層車離れ、保険料率改定、衝突防止機能拡充、等）の加速により修理入庫台数が減少し市場縮小。大型架装分野の需要は底堅いが補うには至らず、全体ではマイナス。
電気機械		41	103.5%	電気機械工業は生産能力増強を主に設備投資が継続。世界経済の回復を受け、外需も堅調に推移。デジタル機器向けプラスチック用塗料は輸出（特に中国）がマイナスも全体プラス。
機 械		50	105.9%	建設機械（排ガス規制特需、外需回復含む）及び工作機械は内外景気が堅調に推移したことによる企業の設備投資意欲向上を受けて前年比増加と見込む。
金属製品		112	101.4%	鋼製家具は低調だがカラー鋼板は対前年比微増など、業界別で状況が異なるが、総じて内外景気は堅調とみられ、概ねプラスで推移すると見込む。
木工製品		16	98.7%	住宅関連、木製家具関連共に需要減少傾向で市場は厳しい状況が続く。五輪需要の期待感があったが、現状は変わらず、それが見込まれる傾向にはなく、マイナス見通し。
家庭用		29	96.8%	年初のプラス予測も秋の需要期（9、10月）の天候不順による落ち込みをカバーできず、昨年を下回る見込み。特に油性は店側の消防対応で陳列する機会が減ってきている。
輸 出		87	100.4%	自動車は北米の生産台数減少により輸出減少。工業用は中国・アジア向けの現地調達化が進み減少傾向。汎用は海外需要は拡大傾向だが微増に留まる。全体では横ばい。
路面標示		76	103.4%	官公庁など発注は前年を上回り安定した出荷が続き、民需も上向きに推移。大雪のため各地にて工事の遅れが目立つ。
その他		74	99.6%	皮革用塗料の国内需要は年々微減が続いている。
合 計		1,392	100.8%	自動車（新車）、防食（軽防食）、建設機械、等の牽引はあるが、市況全般は斑感が強く、底支えとなる個人消費の伸び悩みが深く影を落としており景況感に力強さは感じられない。

注) 経済産業省統計や塗料製造業実態調査での品目「シンナー」は、塗料用として使用している38.8%分を組み入れて計算した。なお、端数処理の関係から合計が合わない場合がある。